

令和6年度 学校関係者評価及び改善策

(中間 **最終**)

両城中学校区 校番 14 学校名 呉市立両城中学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標, 指標の設定の適切さ	A	目標, 指標の設定がなされ年度の最後まで一貫として維持できていることを評価する。現在の教育事情を考えるにおいて, 目標, 指標の維持は難しい。教職員の努力を評価したい。
目標達成のための方策の適切さ	A	目標達成のための方策にも一貫性がある。この方策を考え実行するには, 教職員間の連動した情報の共有が必要であると思われるが, これを推認させるものである。 次年度に向けての高次な方策に結び付けて欲しい。目標を定立することより, 方策の模索が肝要であることを, 教職員間で確認し合う重要性を指摘しておきたい。
自己評価の結果の分析の適切さ	A	自己評価の結果の分析についても, その説明に理解ができた。謙虚な分析であると評価できその適切さも伺われる。この分析が適切でなければ次年度の学校運営, 生徒たちへの教育活動が適切に行われない危険がある。 この分析に基づく次年度への更なる学校運営, 教育活動を期待する。
今後の改善策(案)の適切さ	A	今後の改善策の適切さも肯定できる。この改善策を主軸として, 次年度に続くより良い学校運営を期待する。 多種多様な問題が生じる日々の教育活動であることは予想できるが, この改善策に変化がないことを期待する。換言すれば, この改善策を教職員が共有し, これを意識しながらの次年度の学校運営, 教育活動がなされることを大いに期待する。
その他		多種多様な講師を招き, 生徒たちにその講義を聞かせている。生徒たちに社会性を身に付かせるという意味では, 非常に有意義である。それとともに, 社会を知ることにより, 学問への意欲が一層強くなると思われる。 また, ホームページにおいて, RyojoNewsとして日々, 生徒たちの学校生活を掲載し, 更新していることは保護者, 地域の住民等にも開かれた学校として非常に意義あることである。また, 学校通信も充実したものであることは評価できる。

※ 評価は, A(とても適切), B(概ね適切), C(あまり適切でない), D(まったく適切でない), N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	<p>本校の取組について, 肯定的な評価をいただいた。現在の取組を継続するとともに, 各取組についてPDCAを確実に実施することを通して, 次年度以降の教育活動全体の一層の充実につなげていく。</p> <p>【確かな学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教えて考えさせる授業」を柱に, 生徒の主体的な学びを実現する。 ・Qubena等, ICTを効果的に活用する。 <p>【豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の4つの視点, 特に安全・安心な風土を醸成する。 ・積極的な肯定的評価・発信を行い, 認め合い高め合う集団づくりを進める。 <p>【健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業, 部活動, 委員会活動を通して, 体力を向上させる。 ・生活リズムを整えさせ, 生活を自分でコントロールする力を向上させる。 <p>【業務改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員相互の日常的なOJTにより, 協働して教育活動を進める。
--------------------	--